



第5期科学技術基本計画の あり方に関する提言

日本学術会議 学術の観点から科学
技術基本計画のあり方を考える委員会
委員長 土井美和子(第三部副部長)

2015年1月8日

CSTI有識者会合

本日の概要

- 日本学術会議の基本的立場
- 学術の発展を確保するために留意すべきこと
 - バランスの取れた発展としての視点
 - 学術の持続的発展としての視点
- 第5期科学技術基本計画において特に留意すべきこと
 - 大学等のあり方
 - 基礎研究の重要性
 - 国際社会における我が国の学術のリーダーシップ

日本学会の基本的立場

- 学術は知的・文化的価値と経済的・社会的価値の豊かさの源泉
- 日本学会は人文・社会科学から自然科学にまで及ぶ学術の総合的發展を重視し、その視点から「科学技術イノベーション」を把握
- 総合的視点
 - 学術各分野の有機かつ総合的な發展
- 長期的視点
 - 国際研究プログラム「フューチャー・アース」などの環境問題への取り組み
 - 学術研究の人材確保のための観点から、大学および大学共同利用機関(以下、「大学等」)の現状への深い危機感
- 社会における学術の視点
 - 東日本大震災・福島第一原発事故や研究不正を受けて、学術への失われた信頼の回復と、社会との相互関係の中で学術の健全な發展を図る

学術の発展を確保するために留意すべきこと

• バランスの取れた発展としての視点

- 競争性の導入→極端な重点化は逆に総合的な研究力を削ぎかねない
- 基礎研究が担保されずに基盤的経費の削減→成功する研究に拘泥→萌芽的研究の芽生えを阻害
- 研究投資のPDCA→煩雑な手続きなどで「評価疲れ」→投資とのバランスのとれた評価
- ボトムアップでの学術の「大型施設計画・大規模研究計画」(マスタープラン)の公表(2010年より)
- 以下のバランスへの留意
 - ①ビッグサイエンスとスモールサイエンス
 - ②重点化と多様性
 - ③拠点集中と分散
 - ④ボトムアップ研究とトップダウン研究
 - ⑤イノベーション(革新)とインベンション(発明)

学術の発展を確保するために留意すべきこと

- 学術の持続的発展としての視点

- グローバルなイノベーション共創のための先進的かつオープンな学術情報基盤の構築と強化
- 未知・未踏の課題に挑戦できる人材育成
- 大型設備など、プロジェクト終了後の運営について考慮した持続的な投資
- 未知・未踏の課題に向け、産学官横断の研究開発投資が有用かつ持続的に運用されること

第5期科学技術基本計画において特に留意すべきこと

• 大学等のあり方

- 大学改革は我が国の将来に多大な影響を及ぼすことを十分に認識し、経済的視点に偏した拙速な改変は厳に慎み、長期的展望、百年の計を持って立案する
- 国際的に発展し続けるための将来像、人材育成、教養教育の必要性、地域の活性化等を考量して、我が国全体の大学のあり方の全体像を描く

• 基礎研究の重要性

- 基礎研究のライフサイクル(種まき、萌芽と振興、飛躍的發展と収穫、継続)に応じた適切な施策と支援
 - 種まき段階での大胆な挑戦を可能とする基盤的研究環境
 - 多様な研究を育成する同僚や社会による適切な評価
 - 卓越した研究拠点形成とその継続維持

• 国際社会における我が国の学術のリーダーシップ

- 地球環境観測や防災・減災に関して世界最先端の科学的知見と実践的技術の科学資産と視点を活かした、持続可能な世界へ貢献
- 特にアジア諸国との協働を更に強化した交流の推進